

学燈 *gakutou*

【第10号】



～山口大学教職大学院 改組の年を迎え～

「教職大学院4年目を迎えて」

教職実践高度化専攻長 佐々木 司

教職大学院がスタートして4度目の春を迎えることができました。今年度から「特別支援教育コース」が新設され、既設の「学校経営コース」、「教育実践開発コース」と合わせた3コースに18名の新生を迎えることができました。4期生となる新生が山口県教育界で活躍する優れたリーダーとなるべく、教職大学院での勉学に精励されることを切望しています。2年次生（3期生）の諸君は入学後1年が経過し、いわゆる中間地点を過ぎたわけですが、今年は、高度専門職業人として地域に研究成果を還元していくことが期待される年となります。更なる飛躍を期待しています。

オリエンテーション時に、「ノブレス・オブリージュ」という言葉を紹介しました。高い地位に就く者にはそれに応じた責任があり、その責任を果たす義務があるといった意味ですが、教職大学院で学ぶみなさんにも、トップレベルの職業人としての資質・能力はもちろん、高い道德観・倫理観が求められます。

教職大学院に行かなくても、毎年多くの者が教員、教頭・校長、指導主事等になっています。そのようななか、学校現場や教育委員会事務局における中核として誰もが認めるほどの力量を発揮し、県教育界を牽引できる人物となるよう、教職大学院生は自らを律しなくてはなりません。そのために、教職大学院担当教員は全力をあげて職務に専念いたします。すべての構成員が力を合わせ、教職大学院の量的拡大と質的充実を高次元で成し遂げる年にしていきましょう。

「責任と確認」

学校経営コース長 静屋 智

山口大学教職大学院がスタートして4年目を迎えました。私はこれまでの教員生活で自分の中で大切にしてきた「責任と確認」を、学校経営コースのコース長として特に意識したいと思っています。これからの山口県の教育をリードしていく人材を、一人ひとりの院生に応じた戦略をもって人材育成できているのかという点で、責任を意識した確認をし続けたいと思います。山口県教育委員会と各市町教育委員会、そして山口大学との強い連携をもとにした地域拠点校方式のよさを、院生はもとより多くの学校や教職員に発信し、共有していきたいと考えています。

2年間という短い期間でそれぞれの院生の成長を保障するためには、教職大学院という組織全体でめざす方向性と意識の共有が重要になります。4月から学校経営コース研究会で「学校実習の視点」「学校組織を活性化するマネジメント」等の点から、学校経営コースとしてめざす方向性を共有してきました。「これからの〇〇のあるべき姿」を意識しながら、「何のためにするのか、なぜそうするのか」「何を成果ととらえるのか、そのために何を確認すべきか」等についてマネジメントしていくことが大切です。チームと個のそれぞれの成長を支えていきたいと思っています。

「一人ひとりを大切に育てる」

教育実践開発コース長 田邊 敏明

入学生の皆さん、遅まきながらご入学おめでとうございます。今年度の教育実践開発コースの入学生は9名と少ないですが、チャンスと思っています。10名前後は集団としてもいい雰囲気を出せますし、コース内の2年生にとっても、学校経営コース、特別支援教育コースの院生にとっても、一人ひとりに親しみが湧きます。一方で、今年度からコースの教員も増えて、まさに多様な人的資源があります。院生にどんなわからないことが生じても対応できます。今年こそ、大切に育てられるチャンスなのです。もちろん皆さんもその心づもりで積極的に教員を活用して下さい。成長した皆さんを見た学部生は、皆さんの背中を追って教職大学院をめざしてくるでしょう。現職教員の院生も、教育実践開発コースの院生をしっかり育てて下さい。この出会いは若い教員の考え方を学ぶ絶好の機会となるでしょう。将来、隣の席に現在の教育実践開発コースの院生が座ることになるかもしれません。今温かく育てていると将来同僚になってもしっかりと働いてくれます。教職大学院での交流が将来大きな渦となって山口県の教育界を動かしてくれることを祈念しております。

「特別支援教育コースがスタートしました」 特別支援教育コース長 松岡 勝彦

新入生の皆さま、ご入学誠にありがとうございます。山口大学教職大学院がスタートして4年目の今年、新たに特別支援教育コースが仲間入りをしました。当コースは、現職教員の大学院生1名、ストレートマスターの大学院生1名の計2名を迎えることになりました。当コースの設置目的は、特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態に即した効果的かつ効率的な指導力、関係者とのコーディネート能力等を備えた地域や学校をリードできる人材を育成することです。この目的を実現するため、理論（大学における講義・演習）と実践（実習校における教育実践）を往還するプログラムを取り入れています。今年度は特に、児童生徒の行動を査定し、効果的な指導方法を考え出し、その効果評価を行い、必要に応じて指導方法に手を加える、この4段階を通した介入方略が可能な教員を世に送り出せるよう、大学院生だけではなく、我々大学教員もこれまで以上に精進したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和元年度 山口大学教職大学院教員一覧（46名）（◎…コース長、○…副コース長）

※ 全体では87名だが、専任と第3指導教員までの兼担を掲載。

コース	氏名	担当科目等
学校経営	○池田 廣司	「学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践A・B」「学校経営と組織開発」「学校組織マネジメント探求」他
	板垣 育生	「学校危機管理, リスクマネジメントの理論と実践A・B」「生徒指導の実践と課題」「学校評価と学校改善」「教育行政インターンシップ」他
	岡崎 智利	「教職高度化実践研究Ⅰ・Ⅱ」「教職総合実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」他
	佐々木 司	「教育行財政の制度と課題A・B」「学校関係法令の適用と課題」「教育の制度と政策」「学校経営と組織開発」「学校評価と学校改善」「学校組織マネジメント探求」他
	◎静屋 智	「学校危機管理, リスクマネジメントの理論と実践A・B」「教育の制度と政策」「教育行財政の制度と課題A・B」「教育行政インターンシップ」他
	霜川 正幸	「学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践A・B」「現代的課題と授業改善の実践Ⅰ・Ⅱ」他
	松岡 敬興	「道徳教育の理論と実践A・B」「生徒指導の実践と課題」「キャリア教育実践演習」「特別活動の実践と課題」「学校経営の理論と実践」「学校経営開発基礎」他
教育実践 開発	青木 健	「体育科教育指導法特論Ⅱ」「保健体育科教育内容構成特論」他
	阿濱 茂樹	「知識基盤社会における情報活用の理論と実践A・B」「技術科教育指導法特論Ⅰ・Ⅱ」「技術科教育指導法演習」「技術科教育内容構成特論」「情報科教育指導法特論Ⅰ・Ⅱ」他
	上地 広昭	「保健体育科教育内容構成特論」他
	岡村 吉永	「技術科教育指導法特論Ⅰ・Ⅱ」「技術科教育指導法演習」「技術科教育内容構成特論」他
	川崎 徳子	「子ども理解に基づく教育の理論と実践Ⅰ・Ⅱ」他
	岸本 憲一良	「国語科教育指導法特論Ⅱ」「国語科教育指導法演習」「国語科教育内容構成特論」他
	栗田 克弘	「教科カリキュラム開発, 授業デザインと評価A・B」「授業実践高度化演習」「理科教育指導法特論Ⅱ」「理科教育指導法演習」「理科教育内容構成特論」他
	五島 淑子	「家庭科教育内容構成特論Ⅰ・Ⅱ」他

	佐伯 英人	「理科教育指導法特論Ⅰ」「理科教育指導法演習」「理科教育内容構成特論」他
	斉藤 雅記	「体育科教育指導法特論Ⅰ・Ⅱ」「体育科教育指導法演習」「保健体育科教育内容構成特論」他
	重松 宏武	「理科教育指導法演習」「理科教育内容構成特論」他
	生寫 亜樹子	「教職高度化実践研究Ⅰ・Ⅱ」「教職総合実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」他
	白石 敏行	「子どもの発達と教育の課題」他
	鷹岡 亮	「知識基盤社会における情報活用の理論と実践A・B」「授業実践高度化演習」「情報科教育指導法演習」「情報科教育内容構成特論」他
	高橋 俊章	「英語科教育指導法特論Ⅱ」「英語科教育指導法演習」「英語科教育内容構成特論」他
	◎田邊 敏明	「教育心理学特論演習」「人格心理学特論」「臨床心理基礎実習」 「教育相談・特別支援教育の理論と実践A・B」「臨床心理実習」 「スクールカウンセリングの実践と課題」「学校不適応・問題行動等事例研究」他
	田本 正一	「社会科・公民教育指導法特論」「社会科・公民教育指導法演習」 「社会科教育内容構成特論（公民領域）」他
	成川 ひとみ	「音楽科教育指導法演習Ⅰ」「音楽科教育内容構成特論」他
	西 敦子	「家庭科教育指導法特論」「家庭科教育指導法演習」「家庭科教育内容構成特論Ⅰ・Ⅱ」他
	西尾 幸一郎	「家庭科教育内容構成特論Ⅰ・Ⅱ」他
	猫田 和明	「英語科教育指導法特論Ⅰ」「英語科教育指導法演習」「英語科教育内容構成特論」他
	坂東 智子	「国語科教育指導法特論Ⅰ」「国語科教育内容構成特論」他
	藤上 真弓	「キャリア教育実践演習」「特別活動の実践と課題」「教職員研修開発実践演習」 「学級経営の理論と実践」「教職員研修開発基礎」「学級経営開発基礎」他
	星野 裕之	「家庭科教育内容構成特論Ⅰ・Ⅱ」他
	○前田 昌平	「教科カリキュラム開発、授業デザインと評価A・B」「授業技術の理論と実践」他
	○美作 健悟	「カリキュラム開発の理論と実践B」「教職員研修開発実践演習」他
	森下 徹	「社会科・地理歴史教育指導法演習」「社会科教育内容構成特論（地理歴史領域）」他
	吉川 幸男	「社会科・地理歴史教育指導法特論」「社会科・地理歴史教育指導法演習」 「社会科教育内容構成特論（地理歴史領域）」他
	吉田 貴富	「美術教育指導法特論Ⅰ・Ⅱ」「美術教育指導法演習」「美術教育内容構成特論」他
	和泉 研二	「山口県教育の現状と課題」「理科教育指導法演習」「理科教育内容構成特論」他
特別支援教育	嬉 真里子	「教職高度化実践研究Ⅰ・Ⅱ」「教職総合実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」他
	○須藤 邦彦	「特別支援教育における教育実践の方法」「行動問題解決支援論」 「行動問題解決支援演習」「特別支援教育コーディネーター校内実践論」 「特別支援教育コーディネーター地域実践論」他
	◎松岡 勝彦	「行動問題解決支援論」「行動問題解決支援演習」「特別支援教育実践ケーススタディ」 「特別支援教育コーディネーター校内実践論」「特別支援教育コーディネーター地域実践論」他
	松田 信夫	「特別支援教育の基礎と動向」「特別支援教育モデルケーススタディ」 「特別支援教育開発演習」「特別支援教育における教育実践の方法」 「特別支援教育コーディネーター地域実践論」他
	宮木 秀雄	「特別支援教育の基礎と動向」「特別支援教育モデルケーススタディ」 「特別支援教育開発演習」「行動問題解決支援論」「特別支援教育実践ケーススタディ」他
教育実践開発 (兼担)	飯寄 信保	「数学教育内容構成特論Ⅰ・Ⅱ」他
	北本 卓也	「数学教育内容構成特論Ⅰ・Ⅱ」他
	関口 靖広	「数学教育指導法特論」「数学教育指導法演習」「数学教育内容構成特論Ⅰ・Ⅱ」他
	中田 充	「情報科教育指導法特論Ⅱ」「情報化教育内容構成特論」他

令和元年度 山口大学教職大学院院生一覧（33名）

【学校経営コース】

名前（学年）	原籍校	名前（学年）	原籍校
小倉 好勝（M1）	下松市立下松小学校	浅野間 智子（M2）	防府市立新田小学校
河野 純志（M1）	宇部市立小羽山小学校	上部 孝典（M2）	山口県立宇部工業高等学校
小森 晃子（M1）	下関市立夢が丘中学校	近江 誠一郎（M2）	山陽小野田市立埴生中学校
中原 育代（M1）	防府市立右田中学校	桑原 泰樹（M2）	柳井市立柳東小学校
原田 清孝（M1）	平生町立平生中学校	友重 雅博（M2）	岩国市立岩国中学校
森川 和美（M1）	岩国市立玖珂小学校	平野 晶子（M2）	下関市立関西小学校
森山 龍夫（M1）	山口県立防府商工高等学校	吉永 知宏（M2）	周南市立富田西小学校

【教育実践開発コース】

名前（学年）	実習校	名前（学年）	実習校
青木 達也（M1）	山口大学教育学部附属山口小学校	河田 拓也（M2）	山口市立湯田小学校
烏田 宙明（M1）	山口市立平川中学校	川端 寧々（M2）	山口市立小郡南小学校
川島 幸太郎（M1）	山口市立大内中学校	高富 璃法（M2）	山口市立宮野中学校
河野 智寛（M1）	山口市立川西中学校	中村 仁美（M2）	山口大学教育学部附属山口小学校
小松 周平（M1）	山口市立大殿中学校	平原 拓也（M2）	山口市立平川小学校
島 優平（M1）	山口市立瀨上中学校	榊本 慎吾（M2）	山口市立平川中学校
竹内 萌茄（M1）	防府市立右田中学校	溝部 徳子（M2）	山口市立鴻南中学校
西村 祐一郎（M1）	山口市立小郡中学校	宮内 大輝（M2）	山口市立宮野中学校
最上 翔流（M1）	山口市立鴻南中学校		

【特別支援教育コース】

名前（学年）	原籍校	実習校
上杉 瞳（M1）	山口県立岩国総合支援学校	山口大学教育学部附属特別支援学校
山本 彩織（M1）		山口大学教育学部附属特別支援学校

「教職大学院に入学して」

【学校経営コース M1（現職）】

およそ四半世紀ぶりの学生生活である。その間に時代も変わり、元号まで替わった。しかし「学ぶ喜び」は不変である。学生時代にはそれと意識することなく感じていた喜びを、幾分自転車操業的だった昨年度までの自分を反省しつつ、今味わっている。

「学ぶ喜び」に欠かせないのが仲間の存在である。縁あって出会えた、M1の仲間あっての今の充実感である。毎日「君汲川流我拾薪」状態にあることに感謝したい。

それにつけても思うのは、若い時分にもっと学んでおけばよかったということである。そうしていれば、今、多少は為すことがあったかもしれない。いや、まだ遅くない、「壮にして学べば、即ち老いて衰えず」である、そう気を取り直しているところである。

考えてみれば、様々な縁の御陰で、今ここにいる。人は、逢うべき人には必ず逢えるという。しかも「一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時」に。今、まさにそんな一瞬のただ中にいるという感を強くしている今日この頃である。

【教育実践開発コース M1（ストレートマスター）】

私は、教職大学院に進学して、充実した日々を過ごしている。

教職大学院では、博識な先生方、現職の院生の方々、教員になることを強く志望している先輩方や同級生と教育という大きな共通テーマの下、共に学ぶことができる。そして、教育に関する新しい見方や考え方を知り、普段の授業や会話を通して、考えを深め合っている。私は、そのような日々を通して、自分自身の確かな成長を感じるとともに、もっと教育について学びたい、知りたいという気持ちが大きくなっている。

また、私にとって、毎週2回の実習が、大切な時間になっている。実際に学校現場に行き、沢山の先生方や子供たちに会うことは、実践力を高める上で欠かすことができない。この2年間という長期間の実習では、積極的にコミュニケーションを図り、沢山のことを感じ、学びたい。

私は、教職大学院の環境を最大限活用して、理論と実践の往還をしていき、学校現場で活躍することのできる教員になりたいと思う。

【特別支援教育コース M1（現職）】

4月から教職大学院での生活がスタートした。専門的な知識を得ることのできる講義と、その学びを活かした現場実践とを繰り返しながら充実した日々を過ごしている。特別支援教育コースの講義は少人数で、過去の実践事例を行動理論に基づき解釈するなど、深い学びとなっている。人との繋がりを大切に、教職大学院の2年間で教えていただいたことを現場で活かせるよう整理し、特別支援教育の専門性をより一層高めていきたい。

【特別支援教育コース M1（ストレートマスター）】

私が教職大学院で特に魅力を感じているのは、高い志をもつ同世代の仲間や、経験豊富な先生方とかかわることができるという点である。現職の先生方は授業以外の時間にも声をかけてくださったり、授業づくりに関するアドバイスをしてくださったりして、私に常に新しい視点を与えてくださっている。教職大学院に進学していなければ会うことができなかつた方々との貴重なかかわりを、これからも大切に2年間を過ごしていきたい。